

豪州準備銀行は米ドル金利上昇の影響を注視

- 豪州準備銀行(RBA)は政策金利を据え置き。RBAは米ドル短期金利の急上昇による国内短期金利への影響に言及。
- 米ドル金利上昇が豪州の短期金融市場の需給に波及し、豪州銀行間取引金利は16年6月以来の2%台へ上昇。
- 短期金利上昇によるRBA金融政策への影響は限定的。当面は米ドル金利や豪銀の貸出金利の動向が市場の焦点。
- 豪州国内ではインフラ需要拡大などを背景に製造業の業況改善が進み、雇用増や賃金引上げに波及する兆しも。

豪州準備銀行は米ドル金利上昇の影響を注視

豪州準備銀行(RBA)は4月3日の金融政策理事会で政策金利の据え置きを決定しました。今回、RBAの声明文では、米ドル短期金利の急上昇が豪州の短期金利に波及し始めている問題への言及がなされました。

問題の発端は、米連邦準備制度理事会(FRB)の利上げや米国債増発、米政権の税制改革(レパトリ減税)の影響などから、米ドル短期金利(LIBOR)の上昇が加速傾向にあることにあります。2018年3月以降は、米ドル短期金利(米ドル調達コスト)の急上昇が豪州短期金融市場の需給タイト化に波及しはじめ、豪州銀行間取引金利(3ヵ月物)は2016年6月以来の2%台へ上昇しています(図1)。

もともと、今回の理事会でもRBAは中立的な金融政策姿勢の継続を示唆しており、短期金利上昇によるRBAの金融政策方針への影響は現時点では限定的とみられます。当面は、①米ドル短期金利の急上昇が一時的に留まるか、②調達金利上昇を受けて豪州銀行セクターで貸出金利引き上げの動きが広がるか、などが焦点となりそうです。

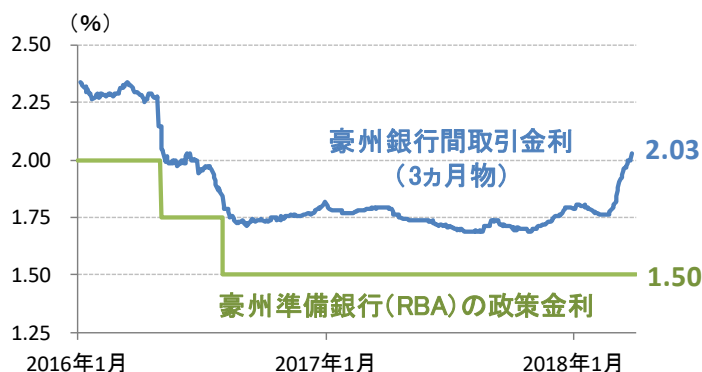
インフラ需要などが製造業の業況改善を後押し

一方、RBA声明文の国内景気判断は概ね先月から変化はみられませんでした。2018年3月の製造業景気指数(PMI)が63.1と過去最高水準へ改善するなど、豪州景気は企業部門の業況改善が続いています(図2上段)。

製造業PMIの内訳を見ると、3月は新規受注や生産、販売などが好調となっており、業況改善が雇用増や賃金引上げに波及する兆しも見えています(図2下段)。

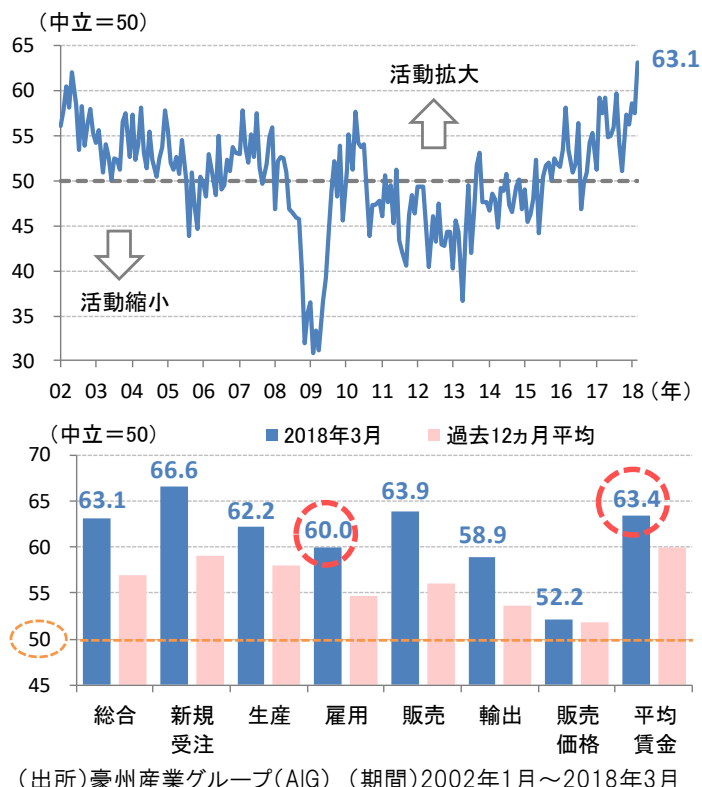
製造業PMIのデータ公表元の豪州産業グループ(AIG)によれば、豪州東海岸のインフラ・プロジェクトや最近の住宅建設ブーム、資源セクターの投資が足元での製造業の業況改善を後押ししている模様です。

図1: 豪州の政策金利と銀行間取引金利の推移



(出所) 豪州準備銀行(RBA)、ブルームバーグ
 (期間) 2016年1月1日～2018年4月3日(銀行間取引金利は3月29日)
 (注) 豪州銀行間取引金利は、豪4大銀行が発行する銀行手形と譲渡性預金証書をもとに算出した実勢利回りで、短期金融市場からの銀行の資金調達コストを示す。

図2: 豪州の製造業景気指数(PMI)



(出所) 豪州産業グループ(AIG) (期間) 2002年1月～2018年3月

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。